

貼れないカイロ！

1 1月半ばからずいぶん寒くなって、朝早い時間の農作業は少々つらくなってきた。コンビニに立ち寄りカイロを買うことにした。棚に並んだ商品の中で、貼れるカイロをさがした。商品によって値段がずいぶん違う。温かくなりようはどれも同じだろうと思い一番安いものを買った。畑に着いてカイロを取りだした。「あれえ、これは貼れないじゃないか。」と思わず声が出た。袋には貼れると書いてあったのにとあって袋を見て目を疑った。『貼れないカイロ』と書いてある。貼れるカイロに『貼る』と表示するのは当然だけれども、わざわざ『貼れない』と表示する必要があるのかなと思った。『貼れない』と大きく書いてあるわけだから、「貼れないじゃないか。」とコンビニに苦情を言うこともできない。また、『貼れないカイロ』だから他の商品よりも安かったのだろう。仕方なく上場のポケットにカイロを入れて作業を始めた。やっぱりお腹に貼っていないとあまり温かくない。わたしのように間違っただけの人も多いのではないかな。もしかして早とちりをする者をねらって『貼れない』と表示しているのじゃなからうかとも思った。

次の週、朝食よりも早く家を出た。コンビニでカップ麺とおにぎりを買った。裏山で枯れ木を集め薪を焚いてやかんで湯を沸かした。少しばかり煙たいのをがまんすれば、焚き火は体の芯から温かくなるし、パチパチと木がはぜる音や炎が揺らぐ様子も楽しい。カップ麺のふたを開け湯を注ごうとして食べたかった品ではないことに気づいた。おかしいなあとラベルを見ると当然、自分が思っていた品とは違う。

二週続けて同じ間違いをすると、我ながら心配になる。思い込みが強くておっちょこちょいなことは若い頃から変わっていないけれども、年をとって自分の目で見たことを判断する力が衰えてきたのかもしれない。そういえば、若い頃は、自分が作成した書類の間違いを指摘されるのがとてもいやだった。だから、書類を作成した後は何度も確認して誤りがないように気を付けていた。それが今では、「あれえ、違うが。ごめんなさい。」と平気な顔をして謝っている。カイロやカップ麺だから大した問題にならないけれど、仕事や車の運転となると、場合によっては取り返しのつかないことになる。慎重に行動しようと思う。

しかし、『貼れないカイロ』の表示はないよな。

